

紙切れに社会のまとめを書いたのを、朝礼時、先生のすきを、監視の目を盗んで、前に立つ友達に隠れ、一心に、それをにらんで覚えた。

気持ちはあせるばかり。他の連中は、「もう社会は充分やった」という顔に見えてならない。

国語はよか。

社会、チンプン・カンブン、全く、悲しい。

六十点くらいじゃろう。

試験の後、反省会があった。その後、学校をぶらぶらする。

バス停まで行くと、バスが行ったところ。一時二十八分、上野のタクシーに付き合う。

僕は、「お金ないよ」と言うと、ただにしてくれた。

本当はお金ないより、もったいない気持ちもあった。それに気付いていた様だった。

三条京阪四十二分の急行に間に合った。